回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸　　令和2年4月（No.1）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ご挨拶～

はじめまして。４月から浜松市山里いきいき応援隊として、水窪町民の仲間入りをさせていただきました。水窪町は人が温かく、昔ながらの商店街や細道が残る町並みはとても趣（おもむき）があると感じています。この町で生活していくのがとても楽しみです。

さて、地域の皆様に、私自身のことや山里いきいき応援隊の取り組みをより知っていただくため、「山いき隊員だより」を定期的に発信していきたいと思います。

第一弾は主に私の自己紹介です。第二弾からは、皆さんとの交流や自身の活動を通して感じたこと・学んだことなど、楽しく報告させていただけたらと思います。

色々といたらない点もあるかと思いますが、温かく見守っていただけますと幸いです。

～自己紹介～

名　　前：栗島　洸（くりしま　こう：28歳・男性）
出　身　地：天竜区春野町田河内

経　　歴：春野町（中学校まで）→ 浜松市街（高校）→ 東京（大学・就職）→ 北海道 → 東京 （退職）→ 水窪町（現在）

趣　　味：森林散策、写真、古着・古道具探し
興　　味：樹木・木材が好きです。使い古されたものや歴史があるものに魅力を感じます。昔ながらの技術や地域の言い伝えなどの保存・伝承にも興味があります。

～そもそも山いき隊ってどんなもの？～

都市地域から浜松市の中山間地域に生活の拠点を移した者等が、市の委嘱を受けて、一定の期間、地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。例えば、

①農林水産業等の地域産業振興に係る支援
②集落の生活環境維持に関する支援
③集落の活性化に係る支援
等が活動の中心となります。

＜詳しくは浜松市のHPをご参照ください＞
https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/shiminkyodo/tyusankan/yamazatoikiikiouentai.html

～今月の主な活動（４月）～

NPO山に生きる会さん、NPOこいねみさくぼさんの活動にお邪魔させていただきました。

今後も、このような形で地域の方々と交流をさせていただき、その中で、自分ができることを見つけていければと思います。

山いき隊の活動について、「こういうことをやれば面白いのでは？」「これを手伝ってほしい！」など、ご意見・ご要望がありましたら、是非私までお声がけください。

＜山住神社古道整備＞

４月11日に山住神社の古道整備にご一緒させていただきました。山に生きる会の方々の知識の豊富さや健脚ぶりに驚かされました。山に生きる会の皆さん、大変ありがとうございました。

４月17日の山住神社の春の大祭も見学をさせていただきました。厳（おごそ）かな雰囲気の中で行われる祭事に、歴史を感じました。秋の大祭にも、是非足を運びたいと思います。

＜粟のポット植え＞

４月19日にNPOこいねみさくぼさんの粟のポット植えの活動に参加しました。小さな粟をポットに数粒ずつ植えていくのは、とても根気のいる作業だと感じました。粟の栽培は、試行錯誤の連続で、毎年工夫を凝らして色々なことを試しているとのことで、今年の粟はどのように成長していくのか、今からとても楽しみです。こいねみさくぼの皆さん、大変ありがとうございました。

本日の余談　～桜のはなし～

私が水窪町に引っ越してきた頃、町内の桜が満開で目を奪われました。

そんな桜の代表格であるソメイヨシノは、挿（さ）し木や接（つ）ぎ木など人の手によって増やされてきたものであり、それぞれの個体が全て同じ性質をもつクローンです。それゆえ、ソメイヨシノの桜並木は、一斉に花を付け一斉に散っていきますが、だからこそ、はかなさや潔さを感じるのかもしれません。

＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

※　facebookを利用しています。日々の活動などをどのように発信していくかは検討中ですが、本回覧のほか、facebook等でも活動報告や水窪町をはじめとした北遠地域の魅力をゆるーく発信できればと思います。

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和2年5月（No.2）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動 (4月20日-５月20日) ～

- NPO山に生きる会の活動（常光寺山登山道整備）への参加
- NPOこいねみさくぼの活動（じゃがた畑の畝上げ、栗のポット苗整理　等）への参加
- 町内農家さんの農作業支援（畑作業・お茶刈り　等）
- 小学校の体験学習（田植え）への参加
- 地域視察、個人HPの作成（来月中に公開予定）

など

お世話になった皆さん、
ありがとうございました！

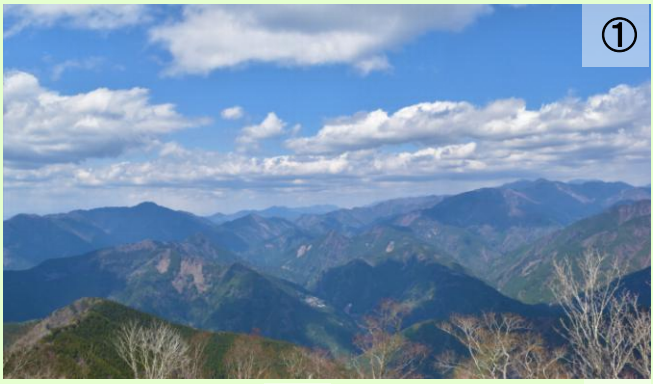
＜常光寺山登山道（上村コース）整備＞

山に生きる会の常光寺山登山道（上村コース）整備の活動にお邪魔しました。

迷いやすい箇所（分岐や道跡がわかりづらい場所）に目印のピンクテープを巻き、分岐の看板が古くなっている箇所については、新しいものに付け替えました。

上村コースでは、バイケイソウやトリカブトの群生、アカヤシオが見られ、少し寄り道をすれば、かつて修験者が修行したといわれる行者場も見られます。

当日、天気は快晴で山頂からの景色が見事でした。



写真①　：　常光寺山頂（1,438m）からの景色

写真②　：　看板の設置。他にも何ヵ所か付け替えています。

写真③　：　行者場に鎮座する石像と咲き初めのアカヤシオ。
石像は崖の先端にあるのですが、私は度胸がないので崖下の風景まではとても写せませんでした。

＜お茶刈り＞

ゴールデンウィークが明け、お茶刈りのシーズンが今年もやってきました。山いき隊の先輩である栗田さんとともに町内農家さんのお茶刈り作業に駆け付けました。

お茶刈りは、天気と時間との勝負に加え、その日の収穫量にも気を配らなければならず、とても繊細な仕事だと感じました。

私の地元の春野町もそうなのですが、この時期になると、どこからともなくお茶の香りが漂ってきてとても気持ちが良いですね。

新茶を飲めるのが待ち遠しいです。

写真④　：　茶刈り機で、茶畑の列に沿って収穫
写真⑤　：　機械で刈りきれない部分を”ぼうら”片手に手摘み
写真⑥　：　茶葉を日の当たらない場所に広げ、古葉や枝を除去
写真⑦　：　茶葉を茶工場へ搬入

【紹介】写真⑧　：　OCHATSUM DAYS (youtubeより)

引佐地区の山いき隊OBと山いき隊員が昨年の６月に作成した、お茶摘みのPR動画（ミュージックビデオ）です。出演者は全員引佐町内の方々だそうで、とてもいい雰囲気に仕上がっています。オススメです。**youtube**で**「お茶摘みデイズ」**と検索すると出てきますので、興味のある方は是非。

このコーナーでは、地域を見て回ったり、水窪にまつわる文献を読んだりする中で、面白い・興味深いと思ったことなどを紹介していきます。シリーズ第１回は山間地域である水窪とは関わりが深い**「峠の話」**です。

水窪には**「兵越峠」「青崩峠」「山住峠」「大津峠」**などの峠があり、これらの峠はどこも水窪の中心街からは離れた高標高の地点にあります。今でこそ車道が整備されていますが、車社会以前は峠を徒歩で越えていたことを思うと、昔の人の苦労がしのばれます。

遠山谷と遠州を結ぶ**「秋葉街道（信州街道）」**の要所である**「青崩峠」**は、車社会以前は、信州・遠州の人々の往来が盛んであったようです。近畿大学の野本寛一氏は、著書「**自然と共に生きる作法（写真⑫）**」の中で、かつて青崩峠を実際に越えた人々に取材を行っています。

これを読むと、**「結婚」「秋葉神社参り」「徴兵」「糸引き・茶摘み・楮（こうぞ）の皮むき（かずたくり）などの出稼ぎ」「修学旅行」**など、峠の両側の人々が様々な目的や思いを抱えて青崩峠を越えてきたことがわかります。また、野本氏の取材の中で、水窪町から信州に嫁いだ女性が、年に数回許された里帰りで信州側から登って峠に立ったときに**「遠州の風が吹く」**と体験談を語っており、峠越えが大変なものだったからこそ、そこを越えるときには色々な思いがあふれたのだろうな、と勝手に想像をしてしまいました。

一方で、民俗学者の柳田国男氏は**「峠越えの無い旅は、正に餡（あん）のない饅頭（まんじゅう）である」**と述べており、峠を越えるからこそ味わえる眺望や感情があることに言及しています。私も青崩峠は何度か見に行きましたが、一度はかつての往来をしのんで、秋葉街道を歩いて峠越えをしてみたいと強く思いました。

写真⑨　：水窪側から青崩峠に続く歩道（秋葉街道・信州街道（通称：塩の道））
写真⑩⑪：青崩峠と信州側の斜面（青く崩れて見えるのが「青崩」の由来）
写真⑫　：野本寛一著「自然とともに生きる作法●水窪からの発信●」（2012）

本日の余談　～桂（カツラ）のはなし～

いよいよ本格的に緑が深まる季節になってまいりました。今回は水窪町でも多く生育しているカツラの木を紹介します。

カツラの新緑は黄色が強い黄緑色で、夕日に当たると写真⑬のように見事な黄金色となり、春の山に彩りを与えてくれます。

また、カツラの木はひこばえ（木の根元から生えてくる若芽）が旺盛で、年月が経つと、写真⑭のように、ひこばえと親の木が一体に見えるため、巨樹になりやすい特徴を持っています。水窪の山住古道沿いにもひこばえが旺盛なカツラがあり、年月が経てば立派な巨樹になりそうです。

カツラの葉は、べっこうアメのような甘い香りがしますので、カツラの木を見かけたら是非匂いを嗅いでみてください。

私は巨樹を見に行くのが趣味なので、水窪町内の巨樹を探してまた記事にできたらいいなと思います。巨樹の情報も是非お寄せください。

写真⑬　：新緑が黄金色に染まるカツラ【2017年春：北海道上士幌町】
写真⑭　：カツラの巨樹(ひこばえ込みの幹回り約19m)【2019年夏：岩手県花巻市】

＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

※　基本的にイベントやNPO法人の活動など、公共性が高い活動の支援を優先させていただきますが、それら以外のものでも、農作業支援や繁忙期の個人経営のお手伝いなど、地域のためになることであれば、できる限り駆け付けますのでお気軽にご連絡ください。私から地域の皆さんに取材をさせていただくこともあるかと思いますが、なにとぞよろしくお願いいたします。

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和2年6月（No.3）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動 (5月21日-6月21日) ～

- 天竜森林管理署グリーンサポートスタッフとNPO山に生きる会が実施する国有林パトロールおよび登山道整備（中ノ尾根山、黒法師岳）への参加
- NPOこいねみさくぼの活動（粟ポット苗の植付、じゃがたの収穫等）への参加
- 町内農家さんの農作業支援（粟・タカキビ等の種まき、草刈り、梅の収穫、じゃがたの収穫）
- 活動についての相談、打ち合わせ（水窪協働センター、浜松市林業振興課、水窪森林組合ほか）
- キャンプ場整備、繁忙期の営業支援
- 個人HPの作成・公開

など

お世話になった皆さん、ありがとうございました！

＜国有林パトロール・登山道整備＞

天竜森林管理署のグリーンサポートスタッフとNPO山に生きる会が実施する国有林パトロールと中ノ尾根山(2,296m）、黒法師岳（2,067m）の登山道整備に同行しました。具体的には、看板の設置や目印のピンクテープ巻きなどを行いました。

中ノ尾根山の山頂付近の尾根は笹が多く進むのが大変でしたが、ちょっとした冒険気分を味わえました。黒法師岳は稜線からの景色が見事で登り甲斐のある山です。山に生きる会が設置している「ヤレヤレ平」「弁当転がし」などクスリと笑える看板にも是非注目しながら歩いてみてください。

写真①　：中ノ尾根山 看板設置
写真②　：中ノ尾根山 山頂付近の尾根筋
写真③　：黒法師岳 看板設置
写真④　：黒法師岳 急な斜面を登り切った後の「ヤレヤレ平」の看板

＜NPOこいねみさくぼの活動＞

NPOこいねみさくぼが行う粟ポット苗の移植、草取り、じゃがたの収穫、畑への電気柵の設置などの活動に参加しました。

特に粟の直播き箇所の草取りが大変でした。地道でなかなか終わりが見えない作業ですが、写真⑤のようにしゃがみ込んでもくもくと草取りをする姿は絵になりますね。作業しながら色々な話ができるのも草取りの良いところです。

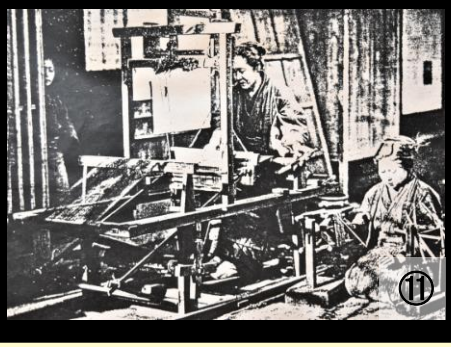
こいねみさくぼの活動では、雑草や動物の食害など色々な問題にぶつかりますが、こういった難しさも農業の奥深さであり、うまくいく保証がないからこそ昔から収穫の喜びは格別だったのかな、と皆さんの奮闘ぶりを見ると改めて感じます。

写真⑤　：　粟のじか播き箇所の草取り（神原）
写真⑥　：　畑に移植した粟ポット苗（神原）
写真⑦　：　じゃがたの収穫（西浦）
写真⑧　：　粟・タカキビ畑への電気柵設置（西浦）

シリーズ～地域をめぐる～
「養蚕の話」

⑨

⑩


⑪

シリーズ第２回は、「**養蚕（ようさん）**の話」を紹介します。養蚕とは、**蚕蛾（カイコガ）**のマユから**糸を生産**する仕事をいい、水窪町でも大正時代をピークに盛んに行われていました。養蚕は主に、**カイコを卵からかえす**、**桑（クワ)の葉を与えて幼虫を育成する**（写真⑨）、**四回の脱皮を経てマユができる**（写真⑫）、**マユから糸を取り出す**（写真⑩）、**糸を巻いて製品にする**（写真⑪）といった工程で行われていたようです。最盛期はカイコ部屋でカイコと寝食を共にし、夜中は**カイコがクワを食べる音**を聞きながら眠ったといいます。

ナイロン、ビニロンなどの化学繊維の増加により**終戦頃には水窪の養蚕はほとんど見られなくなってしまった**ため、今となってはかなわぬ望みですが、一度はカイコがクワを食べる音というのを聞きながら、かつて水窪の基幹産業であった養蚕に思いをはせてみたいところです。

河﨑秋子著の**「土に贖（あがな）う」**という小説（斜陽産業を題材にした短編集）の中で、養蚕の話が出てきますので、興味がある方は是非読んでみてください。ちなみにこの小説の中では、カイコがクワを食べる音を**「雨音に似た音」**と表現しています。

⑫

⑬

⑭

写真⑨ ： カイコのエサとなるクワの葉を刻む
写真⑩ ： マユをゆでながら糸を取り出す
写真⑪ ： 糸巻機で糸を巻く
写真⑫ ： 「まぶし」と呼ばれる棚でマユを育成
写真⑬ ： 種紙。この紙の上に型枠を置いてカイコガに産卵させる。
写真⑭ ： 河﨑秋子著「土に贖（あがな）う」

※　本コーナーの執筆にあたっては、水窪町史（下巻）と水窪町民俗資料館の展示資料を参考にしました。
※　写真⑨～⑬は水窪町民俗資料館の展示を撮影したものです。

本日の余談　～柳（ヤナギ）のはなし～

梅雨時期から夏にかけての雰囲気に合う「柳（ヤナギ）」を紹介します。柳は荒地でもほかの樹木に先駆けていち早く居場所を見つけ成長できるため、河川敷などに良く見られます。そのため、大雨時には、濁流や風雨にさらされることになりますが、持ち前の柔軟性で耐え忍びます。私は、その柳の様子をうたった**「気に入らぬ　風もあろうに　柳かな」**という句がとても好きで、そういう人に私もなりたいなと常々思います。

柳並木といえば、怪談や時代劇の物騒なシーンが連想されがちですが、しなやかでとても日本らしい樹木ですので、もっと評価されてもいいのになと個人的には思います。

⑮

⑯

写真⑮ ： 雨あがりの濁流と柳【2020年６月：水窪町】
写真⑯ ： 川の流れによって根がむき出しになった柳【2020年６月：水窪町】

＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

※ **山いき隊員としての個人ホームページを作成しました。**活動報告やブログ、地域の写真などを掲載しています。
リンク集や写真で地域のお店や施設などの紹介もしています。お立ち寄りいただけたら、大変励みになります！

ホームページはコチラ！▸▸　https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和2年7月（No.4）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動 (6月22日-7月21日) ～

- NPO山に生きる会の活動支援（草刈り・緑化木の植栽・青崩峠旧道の整備等）
- 水窪中学校の生徒が参加する森林教室（森林組合主催）への参加
- 回覧紙、ホームページ等による活動報告及び地域の魅力の発信
- 水窪小学校地域サポーター打ち合わせ
- 農作業支援（茶畑縦刈り・深刈り）
- キャンプ場整備・営業支援、プロジェクト企画

など

お世話になった皆さん、ありがとうございました！

＜森林組合による森林教室＞

森林組合が主催する水窪中学校の森林教室に参加しました。生徒たちは、シカやクマによる農林業への被害について講義を受けたのち、薪割りを体験しました。最初は慣れないヨキの使い方に戸惑っていましたが、さすがは水窪っ子、すぐに慣れて気が付けばバンバン薪を割っていました。

その後、シカ肉・クマ肉の試食がありましたが生徒たちは、獣害の講義の内容を振り返るとともに、普段はなかなか味わえない貴重な料理に舌鼓を打っていました。

写真①：シカやクマによる農林業被害について講義を受ける
写真②：薪割り体験でお手本を見せる森林組合職員

＜茶畑の縦刈り・深刈り作業支援＞

茶畑の縦刈り・深刈り作業の支援を行いました。お茶は茶摘みの時期にスポットが当たるため、茶畑の形を整えるために毎年行うこれらの作業はあまり知らないという方も多いのではないでしょうか。これを行わないと、枝がそろわず翌年の収穫時に苦労することになるので、とても重要な作業です。

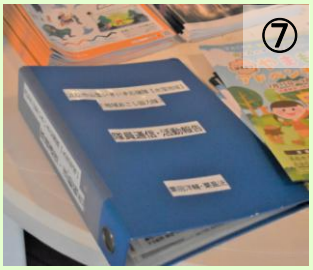
全く関係ないですが、最近は茶畑にもよくヒルが出没する印象です。着実に獣が里に近づいてきているということでしょうか。

写真③：茶畑の横の形を整える縦刈り作業
写真④：茶畑の上部の形を整える深刈り作業

＜山いき隊コーナーの設置＞

活動の透明性を確保するため、また、地域の魅力をより多くの方に発信するため、協働センター、文化会館、観光協会、キャンプ場に山いき隊の活動報告コーナーを設置させていただきました。より詳細な活動報告も掲示していますので、よろしければご覧になってみてください！

今後も地域の皆さんに信頼していただけるよう、活動内容の公開・報告に努めていきます。



写真⑤：協働センター入口の掲示版
写真⑥：文化会館図書館内入ってすぐの書棚上
写真⑦：天竜観光協会水窪支部チラシコーナー
写真⑧：キャンプ場管理棟入口の掲示板

シリーズ～地域をめぐる～
「飯田線にまつわる話」

⑨

⑩

⑪

文化会館にて６月に**JR飯田線にまつわる企画展示**が行われ、かつての写真や駅名板など貴重な資料が展示されていました。

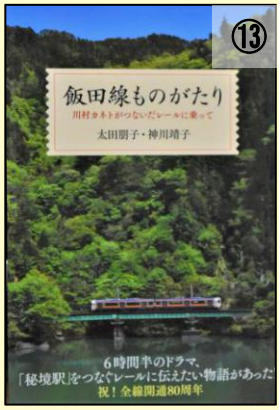
その中で、**「カネト―炎のアイヌ魂」**という本が紹介されていました。飯田線の前身である**三信鉄道**の**測量士**として、**天竜峡谷**沿いの鉄道路線の建設に尽力した**川村カネト**の奮闘ぶりが描かれています。

川村カネトは**北海道のアイヌ**の生まれで、当時蒸気機関車がひかれたばかりの北海道で鉄道会社の測量士として働いていましたが、その能力の高さと勇敢さを高く評価され、**三信鉄道の難所**である**天竜峡谷**沿いの鉄道建設に**アイヌ測量隊**のリーダーとしてはるばる北海道から招かれることとなります。

飯田線の建設にアイヌの人たちが関わっていたというのがまず驚きでしたが、それ以上に当時いわれのない差別を受けていた彼らが、その勇敢さを買われこの天竜川の奥地で鉄道路線を引くという偉業を成し遂げたというのは、とてつもなくドラマのある話だと感じました。

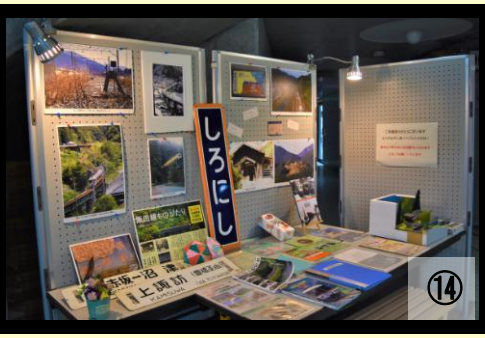
春野町出身の私にとって、春野町以上に山深いこの地に鉄道が走っていることが未だに信じられません。それだけに、開設当時の苦労は相当のものだったろうなとも思います。これだけのことを成し遂げたにもかかわらず、飯田線開設当時の話が風化していくのは残念でなりません。この本を出版した舞阪町の**ひくまの出版**さんはすでに廃業されてしまったようですが、こういった良書は今後も読み継がれていってほしいと強く思います。

⑫



⑬

この記事を書いている途中に知ったのですが、川村カネトの偉業に感銘を受けた有志の方々が、2016年に**「合唱劇カネト」**を水窪の文化会館に招いて公演を行ったそうですね。大変な盛況だったとのことなので、水窪の皆さんはすでにご存じの話だったかもしれません。公演当時の話や飯田線にまつわる歴史について**「飯田線ものがたり（太田朋子・神川靖子 著）」**に詳しく書いてありますので、もし興味がある方は、こちらも合わせて読んでいただけたら一層楽しめるかと思います。



⑭

⑮

⑯

写真⑨⑩：険しい山を走る飯田線（車窓より）
写真⑪：飯田線水窪駅
写真⑫：カネト―炎のアイヌ魂（ひくまの出版）
写真⑬：飯田線ものがたり（太田朋子・神川靖子著）
写真⑭：文化会館企画展示
写真⑮：水窪―小和田間の切符（文化会館企画展示より）
写真⑯：北海道の大雪山国立公園を走る廃路線（国鉄士幌線）。カネトもこのような鉄道路線の測量に関わったのでしょうか。

※ 文化会館の飯田線企画展示は、現在終了しています。

＜連絡先＞ 栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和2年8月（No.5）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動 (7月22日-8月21日) ～

- 水窪小学校課外活動支援（本町探検、キャンプ場虫取り）
- 天竜森林管理署グリーンサポートスタッフとNPO山に生きる会が実施する国有林パトロールおよび登山道整備（麻布山～バラ谷方面）
- キャンプ場及び天竜産木材の利用推進を目的としたプロジェクトの事務および作業支援
- 健康教室、木工教室の支援
- 農作業支援（草刈りほか）

など

お世話になった皆さん、ありがとうございました！

＜水窪小学校１・２年生の地域探検＞

水窪小学校の１・２年生が地域の歴史や文化を知ることを目的とした「地域体験」に同行しました。今回は講師の方から説明を受けながら、本町方面を歩きました。

庚申堂（こうしんどう）には、昔の絵がきれいな状態で残されていること、万歳岩（ばんざいいわ）では、かつて兵隊さんの出兵や学校の先生の転勤の際に、町の人が万歳をして見送ったことなど、子供たちは、興味深々に耳をかたむけていました。

地域の方が講師になるのは、子供たちと地域との交流にもなりますし、何より地域を知る上では一番の先生になると思うので、とても素晴らしいことだと感じました。

写真①②：庚申堂と万歳岩について説明を受ける子供たち

＜国有林パトロール・登山道整備＞

天竜森林管理署のグリーンサポートスタッフとNPO山に生きる会が実施する国有林パトロールと登山道整備（麻布山～バラ谷方面）に同行しました。朝方は林内に霧がかかっていてとても幻想的でした。直径が１.5mほどもあるイチイの大木が見られたのも貴重な体験でした。イチイは漢字で「一位」と書き、昔から貴重な樹木として重宝されてきました。山を歩いていてもそうお目にかかれるものではなく、特に直径１mを超えるようなものは本当に珍しいので、だいぶ興奮しました。

写真③：作業中の写真と林内の写真

シリーズ～地域をめぐる～
キャンプ場×天竜産木材の利用推進に向けた取組

④

⑤

⑥

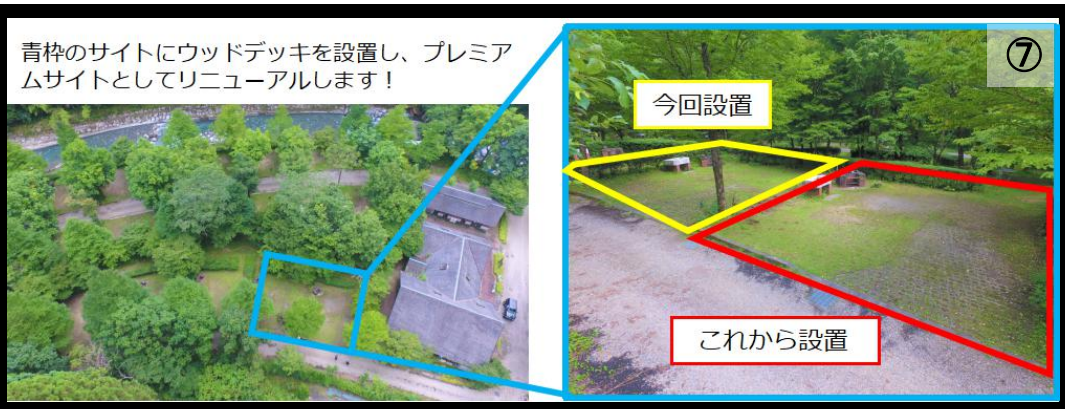
よつばの杜キャンプ場と水窪町ゆかりの有志の事業者たちによる共同プロジェクトが始動しました。本プロジェクトでは主に下記のような事項を実現し、水窪町をはじめとした天竜地域の活性化や天竜産木材の利用促進に貢献することを目標としています。

- キャンプ場に天竜産木材を利用したウッドデッキを設置
- 天竜産木材を活用したサニタリー棟（お手洗い・シャワー室）の修繕をはじめとした施設整備
- 天竜産木材を利用したアウトドアグッズ等の商品開発・販売
- これらにより、キャンプ場（水窪町）への来訪者の増加を図ると同時に天竜産木材の魅力を発信

ウッドデッキの設置にはすでに着手しており、下の写真⑦の黄色枠部分への設置はすでに終了しています。今後赤枠の部分へのウッドデッキの設置にも着手し、最終的には写真⑤のような複数のウッドデッキからなる広々としたプレミアムサイトとして活用することを想定しています。

今年は水窪町への来訪者も例年に比べて目に見えて減少しているところですが、こんな時期だからこそ、事業者の枠を超えて協力して乗り切っていきたいという強い思いが感じられる取組です！

※　今後、クラウドファンディング（支援者を募り、出資していただく仕組み。支援者には見返りとなる商品等を提供します。）も実施しつつ、取組を進めていくこととしています。



⑦

⑧

⑨

⑩

写真④：キャンプ場に新たに設置したウッドデッキ
写真⑤：ウッドデッキの完成イメージ
写真⑥：ある日のキャンプ場
写真⑦：ウッドデッキ設置箇所
写真⑧：ウッドデッキに使用する天然乾燥木材（山栄製材にて）
写真⑨：ウッドデッキの組み立て作業
写真⑩：完成したウッドデッキ（写真⑦の黄色枠部分）と作業後のメンバー

＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和2年9月（No.6）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動（8月22日-9月21日）～

- キャンプ場及び天竜産木材の利用推進を目的としたプロジェクトの事務および作業支援
- 広報用資料（地域の写真集、地域で頑張る団体・事業者のポスター等）の作成
- 中学生に向けたオンライン授業の講師（オンライン職業体験）
- NPO山に生きる会の夏焼集落散策
- 繁忙期につきキャンプ場営業支援
- 森林環境教育指導者養成講座の受講

など

お世話になった皆さん、ありがとうございました！

＜NPO山に生きる会　夏焼集落散策＞

山に生きる会の夏焼集落散策に同行させていただきました。夏焼集落は愛知県（富山村）との県境に位置する集落で、現在住民は住んでいません。夏焼集落へは、飯田線大嵐駅を下車したのち、旧鉄道が通っていたトンネルを歩いていくのですが、これが真っ暗な炭鉱のような雰囲気でとても味があります。

今回は、家の所有者の方のご厚意で、半日家を間借りしてメンバーの交流の場として使わせていただきました。家は非常にいい状態で保たれていて縁側からは天竜川の峡谷が一望できる最高のロケーションでした。

こうした人が住まなくなった集落は全国的にも増加する流れにあると思いますが、少なくともそこに人が生活していた証として、記録だけでも残していかなければいけないと思いますし、地域おこし協力隊としてそういうことに力を入れていきたいと感じています。

＜中学生に向けたオンライン授業＞

東京都の中学校で教員をしている知り合いから依頼をいただき、中学２年生に向けて、自身の今までの経験や地域おこし協力隊の仕事についてオンラインで話をしてきました。

今の状況では外で職業体験がなかなかできないので、オンラインで開催することにしたそうですが、普通の職業体験と違い全国の色々な職業の話を聞くことができて面白いだろうな、と感じました。

これを機に中学生たちが少しでも農山村での仕事や暮らしに興味を持ってくれたならうれしいです。

＜広報用資料（地域の写真集、地域で頑張る団体・事業者のポスター等）の作成＞

地域の情報を伝える資料として、写真集やポスターなどの作成を始めました。作成した資料等は11月以降に天竜区役所に掲示する予定でいます。その他にも、隊員だよりに掲載したり協働センターに掲示したりなど、水窪町の魅力を発信する目的で色々なところで使用したいと考えています。さっそく「NPO山に生きる会」のポスターのイメージを作成してみましたので、裏面をご覧ください！

シリーズ
水窪のヒト

NPO法人 山に生きる会

水窪の山と伝統文化を次世代に！

山に生きる会は、山をはじめとした水窪の豊かな自然や古くから受け継がれてきた伝統文化を次世代につないでいくことを目的として活動するNPO団体です。具体的には、

① 看板・道標の設置などをはじめとした登山道・遊歩道整備
② 「山ビルバスターズ」を結成し山ビルの駆除を実施
③ 一般向けの登山ツアーや講習会を実施し、水窪の山の魅力を発信
④ 郷土料理の再現・試食など伝統文化の継承

といった活動を精力的に実施しています。

水窪の山にいらっしゃい！

山に生きる会では、「水窪100山」を作成し、山の情報や登山ルートなどをホームページやパンフレットに掲載しています。山に登ってみると、会員が地道に背負いながら設置した看板や道標が至るところで見られます。「ヤレヤレ平」「弁当転がし」などクスリと笑える看板もありますので、是非見つけてみてくださいね！

＜連絡先＞ 栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和2年10月（No.7）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動（9月22日-10月21日）～

- 広報用資料（地域の写真集、地域で頑張る団体・事業者のポスター等）の作成
- キャンプ場の利用推進を目的としたプロジェクトの事務作業支援
- 農家作業支援（茶畑の草入れ、米脱穀ほか）
- 小学校地域サポーターとしての支援
- 他地域の山いき隊員との打ち合わせ　など

お世話になった皆さん、ありがとうございました！

＜広報用資料（地域の写真集、地域で頑張る団体・事業者のポスター等）の作成＞

水窪町の情報や魅力を多くの人に伝えたいと考え、下記のような広報用資料を作成しました。これらの資料は11月以降に天竜区役所に展示をするほか、その後は水窪町の皆さんにも見ていただけるように、町内のどこかに展示をさせていただこうと考えています。

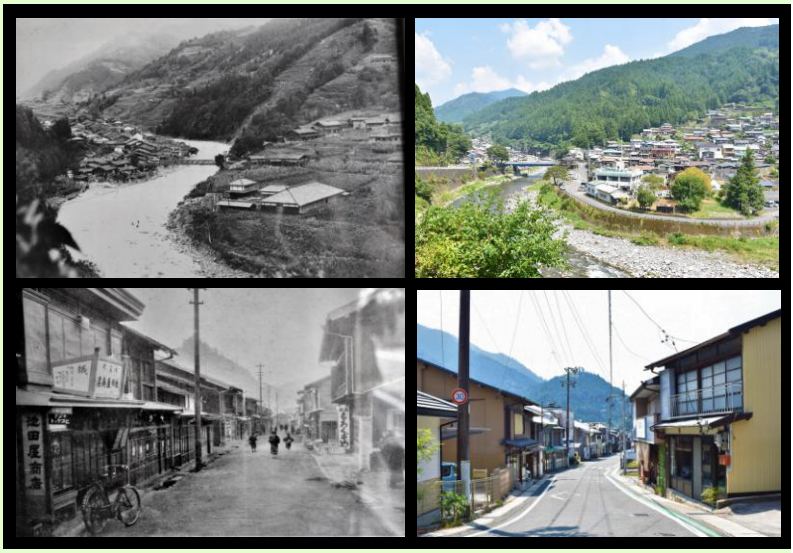
① 地域の写真集の作成

水窪町の集落や地域の景色を写真に残し、水窪町の今の記録を次世代につなげることを目的として、解説付きの写真集を作成しました。

いつか水窪町出身の方がこの写真集を目にした時に地元のくらしを懐かしんでいただけたら嬉しいです。

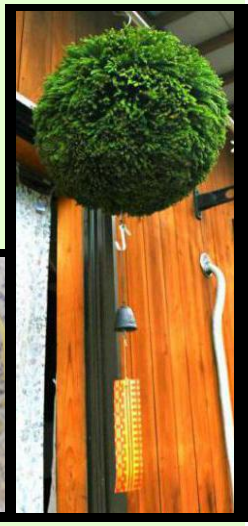
ほとんどの集落を歩いて撮影をしたつもりなのですが、一部掲載できていないものもあります。それらの集落の写真もいずれ写真集に加えたいと考えています。

大正から昭和にかけての写真と現在の比較　→
※ 過去の写真は水窪交流館に展示されているもの



② 水窪樹木標本集等の作成

樹木の葉を採集して解説や写真とともに冊子にした水窪樹木標本集、天竜杉の葉を使った杉玉、穀物や木の実を使った展示物などを作成しました。普通に町内に転がっているものでも、見方を変えれば学びのきっかけや人の目を楽しませる手段のひとつに十分なり得るのではないかということを突き詰めてみました。また感想などいただけたら嬉しいです。



③ 地域で頑張る団体・事業者のポスターの作成

地域の団体や事業者等を紹介する広報資料作りを進めています。前回の「NPO山に生きる会」に引き続き、今回は「**NPOこいねみさくぼ**」のポスターのイメージを作成してみました。今後も町内の方々に取材をさせていただくことがあると思いますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

シリーズ
水窪のヒト

NPO法人 こいねみさくぼ

伝統作物を栽培して地域の活性化を図る！

「こいねみさくぼ」は地域の伝統作物を活かして地域の活性化に取り組むNPO団体です。耕作放棄地等を活用して粟などの雑穀やじゃがた（水窪で伝統的に栽培されているじゃがいも）を栽培したり収穫イベントを開催したりなど精力的に活動を行っています。

収穫した作物は、７月の**じゃがた祭**や11月の**みさくぼ夢街道**などの地域のイベントに出店して販売もしています。

「こいね」は水窪弁で「来てね」という意味の言葉です。その名のとおり、イベント等を通して地域の魅力を発信し関係人口の増加に貢献しながら、地域の伝統作物を次の世代につなげています。

企業と協力した活動を展開！

こいねみさくぼでは有限会社春華堂と協力した活動に取り組んでいます。具体的には、こいねみさくぼが栽培した雑穀を用いて、春華堂でお菓子の開発・販売を行っています。

この活動は、都市と農村の協働活動による地域の活性化を目的とした静岡県の「**一社一村しずおか運動**」の認定を受けており、平成28年には認定式が行われました。

平成30年には、水窪町の家老平にて「**五穀ファーム&ダイニング**」を開催し、青空の下、雑穀等を用いた料理がふるまわれました。

その後も、春華堂の社員が水窪で農作業支援を行ったりなど、都市部と農村をつなぐ活動が続いています。

＜連絡先＞ 栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和2年11月（No.8）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動 (10月22日-11月21日) ～

- 山に生きる会の活動等への参加（奈良代紅葉観察、青崩古道ウォーキング、郷土料理づくり）
- ホームページ等を活用した天竜区地域のくらし・文化等の情報発信および資料作成
- 山いき隊水窪町紹介展示の設置（天竜区役所）
- 峠の国盗り綱引き体験ツアー補助・写真撮影ほか
- 農作業支援（粟収穫作業、敷わら入れほか）
- キャンプ場イベント支援　など

お世話になった皆さん、ありがとうございました！

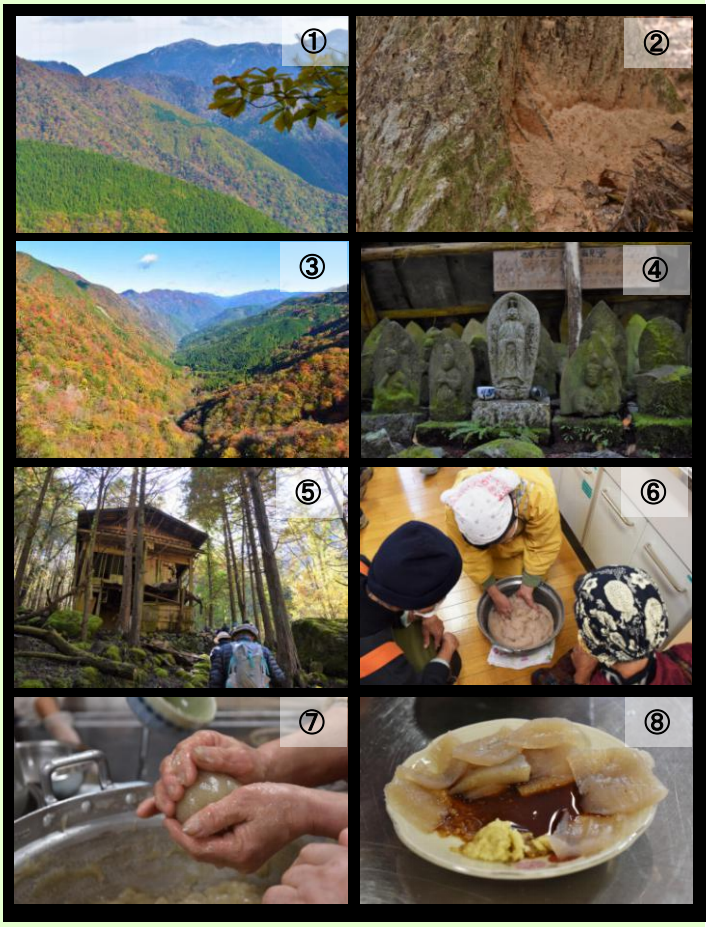
＜奈良代紅葉観察、青崩古道ウォーキング、郷土料理（こんにゃく）づくり＞

奈良代紅葉観察では、山並みを眺めたときのスギ人工林の緑色、天然林の紅葉、カラマツ人工林の黄色が入り混じる様子がまるでパッチワークのようで見事でした。

青崩古道ウォーキングでは、木地屋の墓や通行者を見守る観音さま、かつての集落跡など、この街道が交通の要所だった頃の往来の面影を確かに感じることができました。

今回山を歩いていてナラ枯れが目立ったのが気になりました。枯れたミズナラの根元にはキクイムシが空けたと思われる木の粉が堆積していました。蔓延するとなかなか防ぎようがなさそうなので少し心配です。

郷土料理づくりでは、ソバガラの灰を使った昔ながらの方法でこんにゃくを作りました。こんにゃくの混ぜ方や丸める大きさ・形に参加者それぞれの個性が出ていて面白かったです。最後に完成したこんにゃくをいただきましたが、しょうが醤油や味噌との相性がばっちりでとてもおいしかったです。



写真①：奈良代林道から望む山並み
写真②：ナラ枯れ被害にあったミズナラの根元
写真③～⑤：青崩古道ウォーキング
写真⑥～⑧：こんにゃく作り

＜山いき隊水窪町紹介展示（天竜区役所）＞

11月から12月にかけて天竜区役所の一階展示スペースで水窪町の紹介展示を設置させていただいています。具体的には、
「集落写真集（解説つき）」「水窪に生育する樹木の葉標本集（30種）」「水窪の山紹介ポスター」「地域の団体や事業者さんの紹介ポスター」「農家さんからいただいた粟の穂や自作の杉玉などの自然素材を使ったアレンジメント」「よかっつらみさくぼ作成の方言かるた」「観光協会作成のみさくぼカレンダー」
などを展示しています。展示終了後は町内でも展示させていただこうと考えています。

シリーズ～地域をめぐる　出張版～
「ハチ採り・ハチ食の文化」

　春野町の実家でハチ採りをするということだったので同行してきました。私の実家のあたりではこの時期になると山に穴を掘って巣を作る黒スズメバチ（通称：カナンバチ、カナンバ）を採って食べる習慣があるのですが、この話をすると周辺地域の人にも結構驚かれたりするので、今回は、このカナンバ採りや料理の方法について紹介したいと思います。

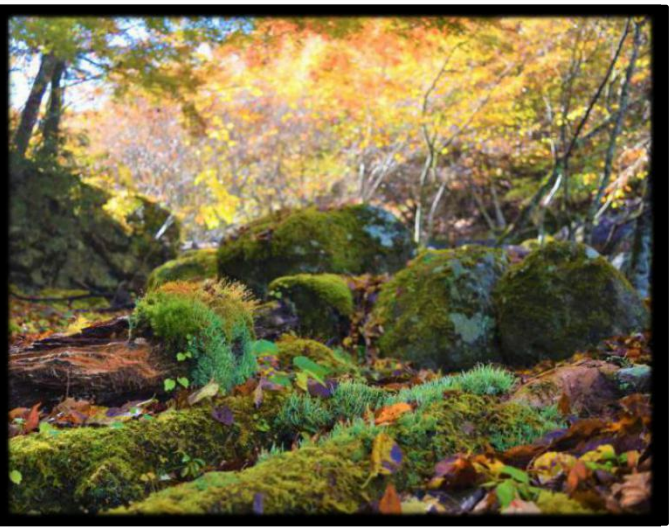
　カナンバ採りは、巣を見つけることから始まります。山の中に魚の肉や鶏肉を置いて、それを巣に持っていくハタラキバチの動きを追うことによって巣を見つけることもあれば、山仕事中に偶然見つけることもあるようです。

　巣を見つけたら、巣の穴の入り口に市販のハチトリ用煙幕を差し込み、カナンバの意識がもうろうとしている間に巣を掘って布の袋にいれて持ち帰ります。持ち帰った巣はそのまま蒸します。ある程度蒸したら巣を新聞紙やバットに広げ、中のハチや幼虫を手作業で取り出していきます。想像するだけでわかると思いますが、恐ろしく手間がかかります。こうしてようやく食材のかたちになったハチたちは、醤油・酒・砂糖などで甘めに煮た後にハチご飯などにすることが多いです。肝心の味ですが、昔からこれほど面倒な作業が続けられてきたというのが納得できるくらい私は好きです。

　ちなみに、黒スズメバチはおとなり信州や奥三河では「スガレ」「ヘボ」とも言われ、同じようにハチを採る文化があるようです。水窪ではあまり聞かないですが、経験がある方がいたら是非教えていただきたいです。

　ハチとりに限らず、日用雑貨のこしらえ方とか、炭焼きの技術とか、水源の管理の仕方とか、色々なしきたりとか、こういう農山村の中でも知識や経験がある人がいなくなれば廃れてしまうような習慣や技術の文章化・伝承はとても大切なことだと感じています。「こういう技術がある」「こういう伝統・習慣がある」など、折に触れて教えていただけたらとても嬉しいです。

みさくぼの秋みーつけた！



＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和2年12月（No.9）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 本年は大変お世話になりました ～

私が4月に山いき隊員としての活動を開始して、早くも９か月が経とうとしています。

今年はみさくぼ祭や峠の国盗り綱引が中止になるなど、例年とは違うことが多い年だったと思いますが、そういった中でも、ＮＰＯ団体の活動や農作業の支援、小学校の総合学習への参加などを通して、たくさんの貴重な体験をさせていただきました。

集落を歩いて写真を撮って回ったり、町内の山を歩いたり、水窪の歴史・産業・文化を学んだり、それらをホームページ等で発信したりなど、自分自身のやりたいことにも没頭することができました。

2020年が私にとって充実した１年になったのは、ひとえにお世話になった皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

また来年、地域の皆さんとお会いできるのを心から楽しみにしております。

お体にはくれぐれもお気をつけて新しい年をお迎えください。

～ 最近の主な活動 (11月22日-12月12日から抜粋) ～

＜秋野菜品評会＞

野菜を育てる会が主催する「秋野菜品評会」に補助員として参加しました。町内の農家さんが育てた大根・丸大根・白菜・人参が計184点も並び、審査を受けました。審査後には一般向けの即売が行われ、町内の方々がこぞって購入されていました。私も大根、人参を購入したほか、出展されていない白菜をいただいたりしたのですが、どれも味良し・形良しの素晴らしい野菜でした。

こういった品評会が野菜づくりのやりがいにもつながっていると感じます。

＜自動運転ＥＶ車両の自動走行実証実験＞

企業・自治体が連携して実施する自動運転車両の走行実験が４日間をかけて行われ、私も試乗者の誘導係として参加しました。実際に乗せてもいただいたのですが、まさに実験という感じで色々な課題があるのがわかると同時に、交通機関としての新たな可能性を感じました。

仮に実用段階に入ったとしても、安全上、高速走行はできないでしょうし、近場を循環するくらいの利用が適しているのだとは思いますが、それが他の交通機関との住み分けになってかえって良いのかもしれないと感じました。

＜静岡県の環境学習指導員に認定されました！＞

10回の講習を経て、静岡県の環境学習指導員に認定されました。資格ではないですし、実地経験も少ないのでまだまだですが、仕事をする上で、水窪の自然や森林・林業等の魅力を伝える一つの手段として今後活用できたらいいな、と思っています。

環境学習指導員としてのお仕事の依頼もお待ちしています(^^)

シリーズ 水窪のヒト　スーパーやまみち / スーパーまきうち

<スーパーやまみち>

小畑地区にあるスーパーです。食料品、酒類、キッチン用品、洗剤等、生活に必要なものはたいていそろいます。昼時には店内で作る安くておいしいお弁当が並びます。その他、地元の材料を使ったお菓子やじゃがた焼酎などの商品も豊富に取り揃えています。

<スーパーまきうち>

大里地区にあるスーパーです。精肉屋さんで良くみかける量り売りのショーケースに並べられた魚介類や肉類は山のお店とは思えない新鮮さとおいしさです。お店で作る海鮮丼をはじめとしたお弁当類は昼ごはんとして大人気です。

～筆者のひとりごと～

やまみちさんもまきうちさんも地域に根差したいわゆる「山のスーパー」です。水窪町の住民にとって必要な物資を調達できるとても貴重なお店です。山間地域でお店を営む苦労は計り知れませんが、こういったお店があるからこそ町が存続していけるのだと思います。

お店に入れば店員さんが気さくに話かけてくれるので、買い物に行くのが一つの楽しみにもなっています。

番外編　水窪のヒト 一問一答　水窪協働センターのお仕事　～地域振興グループ～

地域にとって身近な協働センターですが、意外とどんな仕事をしているのか知っている人は少ないように思います。
今回は協働センターの**地域振興グループ**の若手職員である**元村妃沙（もとむら ひさ）さん**に仕事の内容や仕事への思いについて聞きました。協働センターの仕事をより一層身近に感じてもらえたらうれしいです！

Q１ ： 地域振興グループではどんな仕事をしていますか？

私は観光に対するお問い合わせの対応や、地域の振興に係る業務を全般に行っています。
他には、山村開発センターに関する業務や農業用機械器具の貸し出しなども行っています。

Q２ ： 仕事で心掛けていること・仕事への思いを教えてください！

私は県外出身で、浜松市に来て４年目、水窪町民としてはまだ９か月程度です。わからないこともたくさんありますが、地元職員や地域の方の助けを借りて、地域にとって最善の選択ができるよう心掛けています。大学卒業後「中山間地域で地域づくりをしたい」と考えて浜松に来ました。４年目にして念願の環境に来られた喜びと、地域の皆さんへの感謝を込め、精一杯地域に貢献したいと考えています。

Q３ ： 地域のみなさんに一言！

水窪町はとても素敵なところです。私は学生時代に様々な地域で活動してきた経験がありますが、自信を持って言えます。皆さんにとってより良い環境を作れるよう頑張りますので、微力ながら私にできることがあればいつでもお声がけください。一緒に考えて一緒に取り組みましょう！

元村さんと職場の様子

＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和3年1月（No.10）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 新年明けましておめでとうございます ～

昨年は大変お世話になりました。本年も引き続き地域の皆さんに存分に学ばせていただきながら、水窪の魅力を発信していきます。また、昨年は学ばせていただいてばかりでしたが、本年は学んだことを少しづつ地域のために活かしていけるよう精進しますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

～ 最近の主な活動 (12月13日-1月11日) ～

<しめ縄づくり>

12月16日にこども教室のしめ縄づくりにお邪魔しました。しんしんと降る雪を横目に暖かい時間が流れていました。伝統文化や昔ながらの技術を知っているということは、農山村地域で育った子供たちの強みだと思います。

水窪の子供たちには、自分にこういう引き出しがあるということに自信を持って、胸を張って成長していってほしいな、と感じます。

<もちつき>

12月27日に田楽の里が主催するもちつきのお手伝いをしました。釜で米を蒸して、蒸しあがった米を杵（きね）と臼（うす）でつく昔ながらの方法で作りました。

もちつきに使用される臼には耐水性・耐久性に優れたケヤキが、杵の持ち手の部分には堅いカシの木が使われているそうで、こういった適材適所に使われる木材の使い方も奥が深くて面白いと感じました。

なお、もちつきは思った以上に大変で、翌日は予想通りの筋肉痛でした。まだまだ修行が必要ですね（笑）。

<水窪紹介展示 ～ 是非ご覧ください！～ >

昨年11月から12月にかけて天竜区役所で水窪町にまつわる展示を行いました。１月７日からは、水窪協働センターの２階ロビーに展示を移設しておりますので、お立ち寄りいただけたらとてもうれしいです。

山いき隊員としての活動成果の一つにもなりますので、地域の皆さんに見ていただけたら大変励みになります。

ご意見コーナーを設置しておりますので、山いき隊の活動に対するご意見やご要望も遠慮なくお寄せください！

シリーズ～地域をめぐる～ 「水窪と牛」

令和３年は丑年ということで、牛の話を少し。水窪にも牛が飼われていた時代がありました。

白倉川・草木川沿いの山間のムラでは、戦後乳牛の飼育が盛んに行われ、乳牛・肉牛が一家に１～２頭程度飼われていたようです。乳牛からしぼった牛乳は、人の手で水窪の町に運ばれました。

また、牛を飼育する大きな目的の一つは、糞尿を畑の肥料とすることでした。山地の傾斜が強い畑は、栄養に乏しかったと予想されますが、そのような環境にあって自分の家で肥料を調達できるということは、とても重要なことだったと思います。

水窪に限らず、かつて農山村では一家に数頭の牛や馬を飼育して、トラクターのように畑を耕したり、糞尿を有効に活用したりしていましたが、今ではそのように畑作と畜産を融合させて行っている例はほとんど見なくなりました。

時代の流れではありますが、このような山間地域の知恵ともいえる経営スタイルが消えゆくことに少しさびしさも感じます。

【参考：自然と共に生きる作法 ～水窪からの発信～（野本 寛一）】

乳牛（北海道上士幌町）

番外編 水窪のヒト 一問一答

地域の学び・憩いの場！ ～ 水窪文化会館のお仕事 ～

水窪文化会館では、図書館での本の貸し出しをはじめ、地域にまつわる展示や色々なイベントを開催しています。私も地域の文化や歴史を調べたいときなどに良く利用していますが、とても居心地が良いです。

今回は、文化会館で働いている**津藤圭志（つとうけいじ）さん**に仕事の内容や仕事への思いについて聞きました。

Ｑ１ ： 文化会館ではどんな仕事をしていますか？

水窪地域の文化や生涯学習に関する仕事をしています。子供向け、シニア向けなど世代に合わせた講座や古文書の解読など特色のある講座を開催しています。

Ｑ２ ： 仕事で心掛けていること・仕事への思いを教えてください！

地域の方々に立ち寄っていただけるように様々な企画を考えています。また、身近な場所に感じていただけるように、どんな用事で来館した方にも丁寧な対応をするよう心掛けています。「水窪文化会館だより」を毎月回覧してイベントなどをお知らせしていますので、是非ご覧ください。

Ｑ３ ： 地域のみなさんに一言！

文化会館は特に用事がない方でも、ふらっと立ち寄ることができる場所です。ロビーには休憩スペースもありますし、展示なども行っています。

昨年から地域の人たちもスタッフとして仕事をしているので、雰囲気はとても明るいです。

ぜひお気軽にお越しください！

津藤さん（右端）と執務室の様子

雪の日の水窪（12月16日）

＜連絡先＞ 栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和3年2月（No.11）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動 (1月12日-2月10日) ～

- 水窪町森林組合の取材とホームページの作成支援
- ＮＰＯ山に生きる会　郷土料理レシピ冊子の作成支援
- 農家作業支援（しいたけほだ木の搬出、茶畑の耕うん）
- 水窪地域ＰＲ動画の作成

など

業務外
- 天竜林業研究会主催の林業インターンに参加
- 春野町写真集の作成と区役所展示
- しずおか森林の仕事ガイダンスに参加

お世話になったみなさん、ありがとうございました！

＜水窪町森林組合ＨＰ作成支援＞

水窪町森林組合さんから、ホームページ作成の依頼をいただきました。打合せを重ね、「森林を知り森林を守る～次世代へのつなぎ役～」という水窪町森林組合の理念が伝わるようなホームページを作ることができたのではないかと思います。

２月６日に浜松市内で開催された、「しずおか森林の仕事ガイダンス」では、林業の仕事に興味がある来場者に対して、早速ホームページを使いながら、森林組合の仕事を説明していました。

水窪町森林組合については、裏面で詳しく紹介をさせていただいているので、そちらもご覧ください！

打合せの様子

森林の仕事ガイダンス

＜水窪町ＰＲ動画の作成＞

１月23日にオンライン開催された「まちむらリレーション市民交流会議」に挿入するための動画作成の依頼をいただき、水窪地域をＰＲする短い動画を作成しました。動画による広報は、今のような状況下においては地域をＰＲするための効果的な手段の一つだと思いますので、もし需要があれば、しっかりと取材や撮影をした上で、また挑戦してみたいです。早いもので、水窪に来てもうすぐ１年が経つので、自分が作成した資料や動画などを地域の皆さんに見ていただけるような機会も設けられたらいいな、と思っています。

おしらせ　～文化会館 木の展示～

文化会館で、地域の方の手作り木工作品が展示されています。色々な樹種で作った箸やしおり、カッティングボードやパズルなど、どれも魅力的な作品ばかりです。２月中は展示されているとのことですので、是非お立ち寄りください！

シリーズ
水窪のヒト

水窪町森林組合

水窪町は、町の96%を森林が占める緑豊かな地域です。しかしながら、近年は、林業技術者の減少や高齢化により、地域の豊かな森林資源を使いながら適切に維持していくことが難しい状況となっています。

このような中、水窪町森林組合では、「森林を知り森林を守る～次世代へのつなぎ役～」を基本理念とし、林業に再び光を当てるとともに、地域の美しい森林を次世代につなげることを目的として、「木を植える」「木を育てる」「木を伐採する」「山を調査する」などの山をフィールドとした様々な事業に取り組んでいます。

森林組合の仕事は、**職員**と**現場従業員**の２つに大きく分けられます。

職員は、森林の調査や森林を管理するための計画立案、経理事務などの事務作業を含めた業務全般を行います。

現場従業員は、職員の立てた計画等に基づいて、林内で作業を行います。

木は植えてから**伐採するまでに数十年**がかかります。この気の遠くなるようなサイクルを地道に回し続けることが、次世代に美しい森林をつなげていくためには必要であり、森林組合もその歯車の一つとして、働いています。

山しごとは、長い時間をかけた循環作業です

＜職員の一日（例）＞

8:00　12:00　17:00

出社	＜各担当ごとに業務＞ ・経理事務 ・計画作成 ・打合せ ・山林巡視 ・測量 ・立木調査 ・PC作業 ・現場監督 等	昼食	＜各担当ごとに業務＞ ・経理事務 ・計画作成 ・打合せ ・山林巡視 ・測量 ・立木調査 ・PC作業 ・現場監督 等	退勤

打合せ

立木調査

調査結果取りまとめ等

山の仕事ギャラリー

NEW!! 水窪町森林組合のホームページを作成しました！
https://misakubo-shinrinkumiai.jimdosite.com/

＜連絡先＞
栗島：080-1623-0565
協働センター：053-982-0001

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和3年2月（号外）

【号外】山いき隊員だより（栗島隊員）

みさくぼの節分　～ バリバリとイワシで厄を払う！ ～

＜節分ってどういうもの？＞

節分は、**「立春」の前日**に当たります。２月３日になる場合が多いですが、今年はうるう年ということもあり、実に**124年ぶり**に２月２日が節分に当たりました。

節分は、冬から春に季節が変わるこの時期に、邪気や悪いもの（いわゆる「鬼」）を落として、幸運を呼び込むことを目的に行われます。

節分の時には、「豆をまく」「トゲやにおいのある樹木の枝葉にイワシのアタマをさしたものを家に飾る（**やいかがし**）」などをして厄を払います。

＜みさくぼの節分＞

水窪では、他の地域と同様、「豆まき」や「やいかがし」を行いますが、やいかがしのやり方に特徴があります。通常、全国的には、ヒイラギの枝葉をイワシのアタマにさすのですが、水窪では、ヒイラギではなく**「バリバリ」**と呼ばれる枝葉を使います。バリバリは、一般的に**「カヤ」**と呼ばれる樹木のことです。地域の人に聞いてみたところ、バリバリを使う理由としては、**葉がとがっていて触ると痛い、焼くとバリバリと音がして鬼が嫌がる**、などが挙げられるようです。

ただ、バリバリは水窪の山で頻繁に生えているようなものではなく、地域の方々からも、「知り合いにもらったり、もともと生えている場所を知っていたりしていないとなかなか手に入らない」といった声も聞こえます。

私が、節分の日に本町・大里地区を一回り歩いたところ、道沿いの目についたところだけではありますが、やいかがしをしている家は４、５軒程度でした。やいかがしをする家が少なくなったのには、バリバリの葉が手に入りにくくなったという理由もあるのでしょうか。

来年はもう少し詳しく調べてみたいと思います。

草木の豆ウラ

草木地区の民俗をまとめた資料によると、草木地区には「豆ウラ」という文化がある（あった？）そうです。豆ウラとは、節分の日に、イロリのまわりに豆の12粒並べて焼いて、その焦げ具合で月々の天気を占うというもの。白くきれいに焼けると晴、黒く焦げると雨だとしていたそうです。

バリバリとイワシ

唐辛子つき

サンマで代用

＜周辺地域のやいかがし＞

◀◀ 春野町のとある家

シキミ（香の木）の葉を煎ってイワシの頭に巻きます。これを、先端に切れ込みを入れたシキミの枝に挟んで仏壇や母屋、納屋の入口などに挿します。シキミの枝は、節分の日の夕飯で箸として使った後に、やいかがしの材料にするのがならわしだそうです。

引佐町のとある家▶▶

シキミの葉とイワシの頭を使う点は、上の春野町の例と同じですが、これらをクロモジの枝にさすという点が異なっています。クロモジは高級なつまようじに使われる香りが良い樹木です。左の写真ではミカンの皮も一緒にさしていますね。

「やいかがし」について、もっとくわしく！

節分の夜に、東京周辺の村々ではイワシの頭をヒイラギの小枝にさして、家の入口にさしておく。これを静岡県・愛知県などではヤイカガシ、岩手県の盛岡市あたりではヤッカガシという。この風習は奥羽から中国地方におよび、九州の各地には日を異にして同じようなまじないをする所がある。串もヒイラギのほかに、クロモジの木・大豆のから・竹・楊（ヤナギ）の箸・サンショウの枝などさまざまであり、さすものもイワシの頭・髪の毛・にんにく・ねぎ・らっきょうなどのように臭いもの、または焼いて臭気を発するものを用いる。

＜節分の風習いろいろ＞

静岡県西部に「鬼オドシ」という風習があります。鬼オドシは、一般に長い竹竿の先に籠をかぶせ、これを庭先の一角に立てかけるものです。龍山では、カヤ・クロモジ・シキミを古ぞうりにしばりつけ、その上に籠をかぶせて立てているそうです。右の写真は、カヤを籠の中に入れた佐久間地域の鬼オドシを実践されている様子です。

また、遠州三河地域周辺では、「ナタ餅」といって、節分の夜にナタ餅と称する一臼餅をつく風習があるそうです。水窪や周辺地域の知り合いの方々からは、ナタ餅の風習については、あまり聞けませんでした。

【参考・引用文献】
・草木の民俗（静岡県教育委員会：編集）
・静岡県の年中行事（富山 昭：文・写真）
・年中行事図説（民俗学研究所：編著）

※ 水窪以外の写真は、各地域の方々から提供していただいものです。

【薄れゆく文化・伝承したい技術などの情報を求めています！】

私は、自身の活動として、「森林・林業のＰＲ」「地域の伝統文化・技術・集落の情報の保存・継承」の２つに特に力を入れています（もちろん、他のお仕事の依頼も大歓迎です）。節分の風習をはじめ、いままで、「西浦田楽のわらじ作り」「しめ縄づくり」「伝統料理」「旧道歩き」等の取材を行ってきました。もし、地域の文化や伝統技術などで「文章化・映像化して残したい」「地域外の人にも知ってほしい」というものがありましたら、ご連絡いただけますと大変嬉しいです。

＜連絡先＞ 栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▶▶ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸

令和3年3月（No.12）

山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 最近の主な活動（2月11日-3月10日）～

★ 西浦わらじ・わら草履作り勉強会、技術を保存・伝承するための動画撮影と動画編集
★ ＮＰＯ山に生きる会　郷土料理レシピ冊子作成のお手伝い
★ 「水窪の林業のあゆみ（仮称）」の資料作成と取材
★ 農作業・キャンプ場等の支援
★ 他地域隊員との打合せ　　など

お世話になったみなさん、
ありがとうございました！

＜西浦わらじ・わら草履作り勉強会＞

西浦田楽で使用するわらじ・わら草履の作り方を引き継いでいくことを目的として、西浦地区を中心とした有志の方々が勉強会を行うとのことで、私も動画撮影係として参加させていただきました。講師の竹中菊男さんが作るわらじとわら草履は丈夫で形が整っていて、長年の経験を感じました。このように地域の文化・技術を積極的にに保存していく活動にご一緒させていただけてとてもうれしく思います。

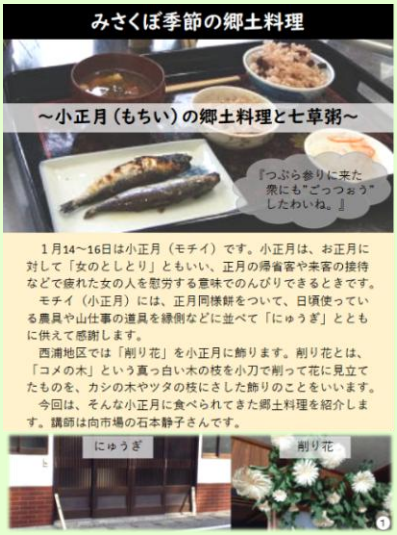
わらじ・わら草履の作り方を解説した動画も作成しました。文化会館などに何枚かDVDを置かせていただく予定ですので、是非ご覧ください。

＜郷土料理レシピ冊子作成のお手伝い＞

山に生きる会から依頼をいただき、郷土料理の作り方を掲載したレシピ冊子作成のお手伝いをしています。山に生きる会が地域内の方を講師に招いて開いた料理教室の内容をわかりやすくまとめていく予定です。

「小正月の郷土料理と七草粥」「端午の節句のかしわもち」「盆にご先祖様といただく御馳走」「地こんにゃく」「月見の御馳走」「豆腐」など、季節の行事などとも合わせて古くから作られてきた料理が盛りだくさんです。３月中に完成予定です。

※　写真は完成イメージです→



みさくぼ季節の郷土料理

～小正月（もちい）の郷土料理と七草粥～

『つぶら参りに来た衆にも"ごっつぉう"したわいね。』

１月14～16日は小正月（モチイ）です。小正月は、お正月に対して「女のとしとり」ともいい、正月の帰省客や来客の接待などで疲れた女の人を慰労する意味でのんびりできるときです。

モチイ（小正月）には、正月同様餅をついて、日頃使っている農具や山仕事の道具を縁側などに並べて「にゅうぎ」とともに供えて感謝します。

西浦地区では「削り花」を小正月に飾ります。削り花とは、「コメの木」という真っ白い木の枝を小刀で削って花に見立てたものを、カシの木やツタの枝にさした飾りのことをいいます。

今回は、そんな小正月に食べられてきた郷土料理を紹介します。講師は向市場の石本静子さんです。

にゅうぎ　　削り花

くるみ豆腐

材料（5～6人分）

・くるみ 80g　・吉野葛 80g　・水 カップ2　・砂糖 大さじ2
・塩 小さじ1/3　★ みそ 200g、砂糖 50g、みりん 50g、水 50g

作り方

① くるみをすりばちでしっかり擦る。

② ①に水2カップを入れて混ぜ、うらごし器でこす。こしたものを鍋に入れて、吉野葛と砂糖・塩を加える。

③ 木べらで辛抱強くかき混ぜながら、とろみをつける。

④ ③を器に流し込み、冷ます。★の調味料を合わせて甘味噌を作り、お好みの量をかけていただく。

普段こんなところで仕事をしています！

資料作成や動画編集などの事務作業をする時は日中は、基本的には自宅ではなく協働センターの２階で仕事をしています。３月からは地域の方の目に付きやすい2階ロビーの展示コーナーで作業をしていますので、お立ち寄りの際には、是非お声がけいただけるとうれしいです！

＜ 西浦田楽 ＞

旧暦1月18日、月の出から翌日の日の出まで、厳寒の観音堂で**夜を徹して**行われます。**養老３年（719年）**、行基菩薩がこの地に訪れ仏像と仮面を作って奉納したのが始まりとされています。

能衆の役は**代々世襲により受け継がれ**、現在まで伝統を守り続けています。西浦田楽は昭和51年に**国の重要無形民俗文化財**に指定されています。

なお、令和３年の西浦田楽はコロナウイルスの影響で、舞の奉納が中止となりましたが、これは、1300年超続く西浦田楽の歴史の中でも初めてのことだそうです。

＜ 西浦田楽とわらじ ＞

西浦田楽の能衆は、**わらじやわら草履を履いて舞を踊ります**。このわらじは、地域の方が毎年作っています。市販のわらじだと縄が弱く舞の途中で切れてしまうおそれがあるので、能衆の方々も手作りで縄から作り上げるこの丈夫なわらじを頼りにしているそうです。

しかし、この**わらじを作ることができる人が、今ではほとんどいなくなってしまいました**。そのため、西浦地区をはじめとした有志の方々が、地域で長きにわたってわらじを作ってきた**竹中菊男さん**を講師に招いて勉強会を開催することとなりました。

＜ わらじ作り ＞

まず最初に二尋（ふたひろ：３m強ほど：一尋は両手を広げた長さ）の縄をないます。縄ができたら、わらじの型を作ってわらを編み込んでいきます。この時、足と手のひらを使ってこまめに強く引いてあげるのがポイントです。その後、足首を固定するための縄を通す「ち」という部分を作ったり、かかとの形をつくったりする作業があるのですが、こういった細かい作業は、作成した動画を参考にしていただければと思います。

わらじ作りは、とにかく**最初の縄をいかに丈夫になえるかが肝心**です。縄をなう技術は、わらじに限らず色々な場で重宝されるので、練習しておいて損はないと思います！

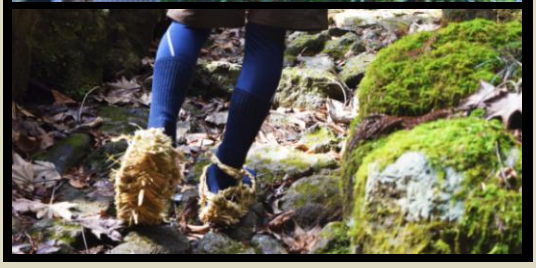
＜ わらじで古道を往く ～ かつての水窪の暮らしを思う ～ ＞

教えていただいたわらじ作りを実践したくてたまらず、縄をなうところから練習を重ね、さっそく３足の試作品を作りました。わらが貴重なので、泣く泣く縄に一部既製品を使ってしまったのが、残念なポイントです。

かつて水窪の人は、わらじを履いて学校に通ったり峠を越えたりしていたそうです。自分もその当時の暮らしに少しでも寄り添うべく、不格好な自作のわらじで山道を歩いてきました。歩いたのは、かつて交通の要所であった青崩峠の古道です。

保険として登山靴もバッグに入れて持って行ったのですが、思った以上にわらじが丈夫で１時間程度山道を歩く分には全く問題ありませんでした。底が滑らないので、岩場は登山靴よりも歩きやすかったです。

ヒルが出ないうちに、もっと丈夫なわらじをこしらえて次はもう少し長い距離を歩いてみたいです。



＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/

回覧

浜松山里いきいき応援隊　水窪地域担当　栗島　洸　　令和3年3月（号外）

【号外】山いき隊員だより（栗島隊員）

～ 栗島からのお知らせ ～

★令和３年度も継続して水窪地域で活動を行います。引き続きよろしくお願いいたします。

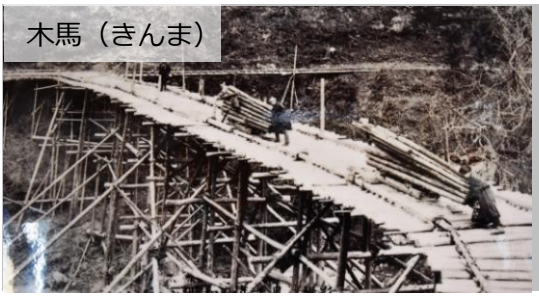
★西浦地区伝統のわらじ・わら草履の作り方を解説した動画をDVDにしました（右写真）。文化会館にも置いてありますので、館内やご自宅で視聴いただけたら嬉しいです。

★４月末～５月のどこかで、山いき隊員としての活動報告と１年間で作った資料や小物等の展示を兼ねた発表の機会を設けさせていただく予定です。場所や日時が確定しましたら、またお知らせします。

小出しシリーズ　～ 森林･林業今昔 ～

現在、水窪や周辺地域の森林・林業の歴史と現状を調べ、それらの情報をまとめた資料を作成しています。資料の作成には時間が必要ですが、少しずつ隊員だより等を活用して情報を紹介していけたらと思います。今回は、林道が整備されていない時代に丸太を山から運び出す時に使っていた手法の一部を紹介します。

木馬（きんま）



木製のそりに丸太を載せて木馬道（きんまみち）の上を人力で引きます。木馬道は、丸太を枕木状に並べて杭で留めた構造物のことで、油を塗って滑りやすくします。木馬には硬いカシの木を使うことが多かったようです。木馬による搬出作業の苦労は並大抵のものではなく、力持ちで足元が素軽い、機転が利くなど色々な条件を兼ね備えた者しか務まらなかったそうです。

参考：広辞苑第七版、目で見る森林伐出手法（辻本弘義）
写真：天龍木材株式会社所蔵

森林鉄道

水窪駅隣接の水窪貯木場を起点に水窪川からの支流の戸中川沿いを遡上する21kmほどの鉄道路線が敷かれていたそうですが、水窪ダムの建設や林道の整備に伴い昭和39年度に全線が廃止になっています。ここで使用されていたガソリン機関車は、廃止直前に当時の天竜林業高校へ教材として譲渡され、さらに現在は高知県馬路村の魚梁瀬（やなせ）森林鉄道で整備の上、保存されているそうです。

参考：特撰森林鉄道情景（西裕之）　　写真：水窪町森林組合所蔵

修羅（しゅら・すら）出し

修羅出しは材木を溝状または枕木状に並べてその上を滑らせて丸太を一か所に集める手法です。丸太がうまく滑っていくような傾斜・カーブの設計や中継所の選定が必要だったと予想されます。滑ってくる木材を中継所や土場（どば）に落とす役を馬子（まご）、馬子が落とした材木を整理して積み上げる役を木直しといいます。彼らは独特の合言葉を用いるなどして連携し安全に配慮していたそうです。

参考：目で見る森林伐出手法（辻本弘義）　　写真：水窪町森林組合所蔵

ヤガラ

ヤガラは上流から流した丸太をせき止めて一か所に集めるための構造物をいいます。木材や石を利用して組み上げます。川をせき止めた後は、上流から流した木材を貯め１本ずつ下流に流し、天竜川の途中で受け取り、それより先は筏（いかだ）にして運んでいました。今ではもう見かけないですが、昔は川の流れを利用した運搬も頻繁に行われていたようです。

参考：天龍木材株式会社ホームページ
写真：天龍木材株式会社所蔵

シリーズ ～地域をめぐる～　「焼畑・山づくりの文化」

アワ

ヒエ

農作業用具（民俗資料館）

＜焼畑とは＞

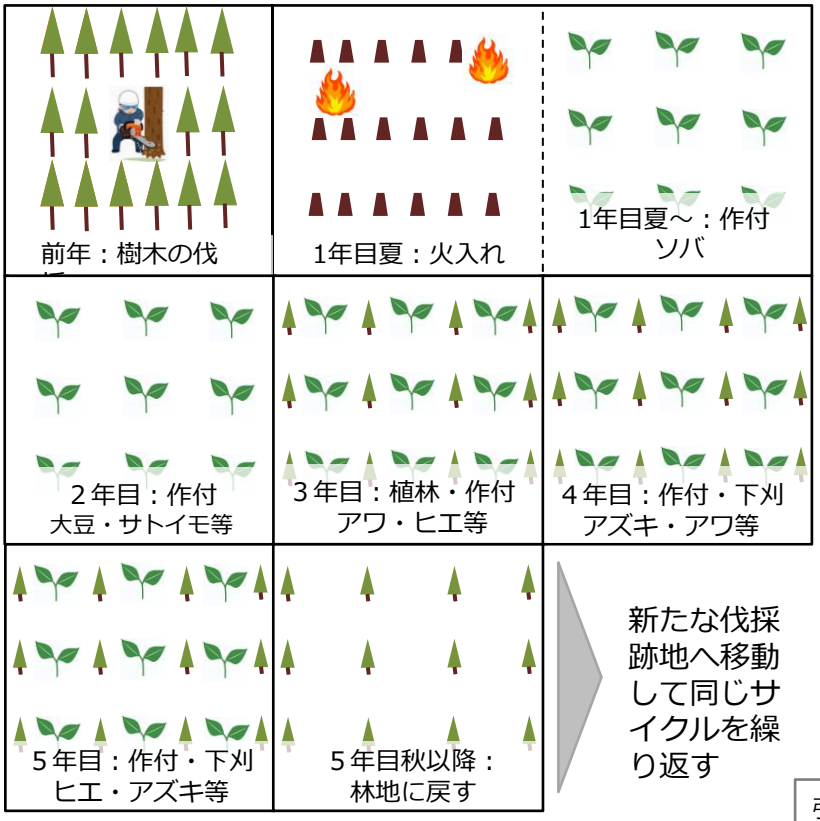
焼畑は、山林を伐採し苗木を植えた植林地において苗木の間の空間を利用して農作物を栽培することをいいます。こうした焼畑農業のことを「山づくり」ということも多いそうです。

焼畑は八重山諸島から北海道まで広く行われていましたが、昭和30年代頃になると衰退しはじめ、高度成長期に入って完全に終わりを迎えました。

焼畑は本来食糧を確保するために行うものでしたが、焼畑農業の末期には、お茶や養蚕のための桑、製紙用のミツマタなどが積極的に栽培されるようになったそうです。現在はそういった焼畑耕地も姿を消し、その大部分は杉・ヒノキなどの植林地になっています。

表：昭和30年前後の水窪の焼畑暦（「水窪の民俗」より）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
前年	立木伐採						カワムキ	出材	
1年目				火入れ（山焼）		ソバ種まき		ソバ収穫	
2年目	大豆種まき	サトイモ種芋植え			下刈除草		大豆収穫	サトイモ収穫	
3年目	植林	枝縛り アワ・ヒエ種まき			下刈除草		アワ・ヒエ収穫		
4年目	アズキ・アワ種まき				下刈除草		アズキ・アワ収穫		
5年目	ヒエ・アズキ種まき				下刈除草		ヒエ・アズキ収穫	下刈後放置	



図：焼畑の１サイクルのイメージ

＜水窪と焼畑＞

水窪でも植林地において焼畑が行われていました。数年間を１サイクルとした輪作で作付パターンは地域や家によって異なります。代表的な事例を以下に挙げます。

１年目：ソバ
２年目：大豆・サトイモ等
３年目：アワ・ヒエ等 ＋ 苗木の植林
４年目：アズキ・アワ等
５年目：ヒエ・アズキ等

１年目には必ずソバを蒔いたそうですが、これはソバであれば短期間で実を付け夏に火入れをしても11月上旬には収穫できるという理由からだそうです。

水窪でも焼畑が見られなくなって久しいですが、もし経験したことがある方がいらしたら、是非お話を聞いてみたいです。

引用参考	「焼畑民俗文化論」野本 寛一　著 「水窪の民俗」遠州常民文化談話会　発行

＜連絡先＞　栗島：080-1623-0565　　水窪協働センター　地域振興グループ：053-982-0001

ホームページはコチラ！▸▸ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/